

「女神山のお話」

女神山は小手郷（川俣町と伊達市月舘町の境^{さかい}）にあり、この地方に養蚕^{かいこ}と機織り^{はたおり}の技術^{ぎじゅつ}を伝えた「小手姫」を供養^{くよう}する山として「女神」の名がつけられたい言う伝説が残っています。女神山は標高^{たかさ}599, 4mで「福島百名山」と「ふくしま遊歩道^{ゆうぽう}50選」選定委員会推奨遊歩道にも指定され、やさしい名前のおり登山道は適度な勾配^{こうばい}で親子でも楽しく登れる山です。

山頂には**一等三角点**が置かれ、山頂のすぐ下には胎内^{たいない}くぐりがあります。山頂からの360度の展望^{てんぼう}は素晴らしく霊山・花塚山・口太山・安達太良連峰・吾妻連峰の山々・遠く南には二岐山、北に目を向けると蔵王の山並みを見る事ができます。そして眼下には福島市を始め、県北地域の街並みを見る事ができます。登山道のいたる所で蝶の姿も多く見る事ができ、今から10年前までは、体長5～5, 5cmで「春の女神」と言われていた「ヒメギフチョウ」のとぶ姿も多く見る事ができました。

残念ながら、地球温暖化が進み「ヒメギフチョウ」の飛ぶ姿は見る事ができなくなりましたが登山道には「カタクリ」咲き乱れその美しさは感動そのものです。また、シュンラン・ニリンソウラショウモンカズラ・各種のスミレなど私達の目を楽しませてくれます。此の、かけがいの無い自然と、小手姫の時代に想いをはせながら女神山に登れば、素晴らしい小登山の一日になること請け合いです。

☆女神山の植生は県北で1番なのです。

（福島県もりの案内人）

咲いた花見て喜ぶよりは

咲かせた根っこの 恩を知れ

私は、県の環境課より「うつくしま地球温暖化防止活動推進員」の依頼を受け、次の時代を担う子供たちに自然観察の時、自然の中で「地球温暖化防止」は誰でもできる簡単な事から始めればよいよ！と、毎回話しています。

私も、省エネ・節電対策の「グリーンカーテン」にと、窓辺の庭に植えた朝顔が、本当に綺麗に咲いてくれました。毎朝、綺麗に咲いてくれてありがとうと、言葉をかけています。(花は蔓に支えられ、その花も蔓も、目には見えない根に助けられているんだなあ！)

其の事に気づいた時、私が何も考えずに踏んづけている地面の下の根っこの事が思い起こされ、一生懸命「根っこさんありがとう」と地面に向かって話しかけました。

私たちが本当に大切にしている「おかげさま」の言葉どおり本当に私たちは、今、大事なもののほど見失いがちなのかもしれません。今、私たちがここにこうしているのは、どれだけの人々に支えられているのか？おそらく「陰」に隠れて知らないほうがはるかに多いに違いないと思います。

「人」と言う字がそれなのです。

二人が睦まじくいるためには

愚かであるほうがいい

立派すぎないほうがいい

立派すぎることは

長持ちしないことだと気づいているほうがいい

完璧をめざさないほうがいい

完璧なんて不自然なことだと

うそぶいているほうがいい

二人のうちどちらかが

ふざけているほうがいい　　ずっとけているほうがいい

互いに非難することがあっても

非難する資格が自分にあつたかどうか

あとで　疑わしくなるほうがいい

正しいことをいうときは　すこし控えめにするほうがいい

正しいことを言うときは　相手を傷つけやすいものだ

気づいているほうがいい

立派でありたいとか　正しくありたいとかいう

無理な緊張には　色目を使わず

ゆったり　ゆたかに

光を浴びているほうがいい

健康で風に吹かれながら

生きていることのなつかしさに

ふと、胸が熱くなる

そんな日があつてもいい

なぜむねがあつくなるのか

黙っていても

ふたりにはわかるものであつてほしい

【心の残るお話】

ひとを喜ばせるために流す汗を味わった事のある人は また、次に勉強する。この汗をかけるって事は本当に幸せな事なのです。常に学びたい気持ちには終わりはないと思います。私たち人間は、怒りや憎しみに身を任せたり、他人を批判したりしている「ひま」があったら 自分のできる事を少しずつでもいいからやっていくのが大切ではないかと思います。世界は私達一人一人からできているのでいくと思います。

★一人一人の人間の「自然に対する思いやり」それは、自分の家の軒先に、「ツバメ」の家に貸すという、ちょっとした優しい「心遣い」にかかっていると思います。

★人は誰でも生きていく上で落胆したり、失望したり、諦めを繰り返し、つらい思いを何度もしていくけれど、苦しみを乗り越えた時には「経験」という「宝物」に変わっています。

「人の使命とは自らが笑顔で生き、周りの人々も幸せにする事」でないでしょうか。

人間は一つ一つ花であり、小さい花もあれば、大きい花もあります。ひっそりと道の脇で咲いて、花の一生を終える事も多いのです。

花の使命は咲く事、自分しか咲かせられない花を一番美しく、咲かせる事、その場所で精一杯咲く事だと言います。

ただ一度の人生、「笑顔」になれなくとも、明日はきっと

「笑顔」になれる、という事を思い続ける事に意義がある。